

「あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることはない生き  
た言葉によって新たに生まれたのです。」（ペトロ一、1章23節）

今日はたくさんの花に囲まれて礼拝をしています。嬉しいとき悲しいとき、重要な場面には必ず花があります。たとえば結婚式。チャペルの通路の両側に一輪ずつ飾られた花。そこを通る花嫁の持つブーケ。素敵ですよ。またお葬式では、亡くなった人の棺や写真のまわりにたくさんの花を飾ります。花だけで何百万円もかかるお葬式もあるそうです。火葬場に出発する時は、棺の中に花を入れて最後のお別れをしたりします。卒業式ではコーサージュが卒業生の胸を飾ります。その他、演奏会の花束や大切な人に捧げるプレゼントにもなります。

このように、嬉しいとき悲しいとき、重要な場面には必ず花があります。嬉しいときは祝福し、悲しいときは慰めてくれ、重要な場面では緊張を和らげてくれます。言葉には出さないけれど、花はそれだけで私たちの心を豊かにしてくれます。花の魅力はその色や形の美しさだけでなく、何よりそれが生きている命だからだと思います。しかも、その命は短い。短いからこそ尊い。その一瞬の命の輝きが、人の人生を象徴しているようで、昔から詩や音楽で歌われてきました。

今日の聖書は、花にたとえられた人の一生は、限りがあるけれど、神の言葉は永遠に変わらない。私たちは、その神の言葉によって永遠に生きる花になれる、と語っています。イエス・キリストがそうであるようにです。イエスキリストは、本当の愛とは何か。本当の命とは何か。本当に美しいこととは何かを、文字通り身をもって示してくれた方です。戦うことしか知らない殺伐とした砂漠のような心に、活ける水を注ぎ、愛という花を咲かせてくれる方。また命は決してはかなく弱いものではなく、天地を創造しうるほどの強さをもっていることを教えてくれました。花を神様にささげて礼拝している私たちは、そのことを今日信じたいと思います。

夕方にはその花をもって日頃お世話になっている方々へ、感謝の訪問をします。一緒にいけない人も、みんなの代表の気持ちで行くので、ぜひ気持ちは合わせて欲しいと思っています。